明治卅八年一月十四日　第三種郵便物認可

朝鮮日報

定價　壹ヶ月金參拾錢（郵送料共）
廣告　五號活字十九字詰一行　壹日金拾三錢　三日以上　金七錢　五日以上　金五錢　特別割引　金貳拾錢
發行兼印刷人　葛生修亮　編輯人　段原有顯
發行所　韓國釜山港大廳町二十七番地　朝鮮日報社

京釜鐵道
釜山發車時間表

釜山出	龜浦	勿禁	院洞	三浪津	密陽
八.三七	九.〇二	九.二六	九.四一	九.五六	五.五一
四.〇七	四.三二	四.三六	五.一一	五.二六	五.五一

慶山	大邱	新洞	倭舘	若木
前				
二.〇七	二.〇一	八.二〇	九.〇二	九.二七
後				
七.三七	八.〇一	二.五五	三.四九	四.〇二

秋風嶺	黃澗	永同	深川	伊院
一.四四	一.〇三	一.〇七	一.二九	一.〇六
六.八五	六.四五	七.〇六	七.二八	七.四五

太田	新灘津	芙江	鳥致院
八.二五	八.三二	八.四二	九.一六
三.〇〇	三.一七	三.二七	三.五八

全義	小井里	天安	成歡
一二.三	一〇.一五	一〇.二〇	一一.四〇
四.四六	四.五九	五.一七	五.二三

烏山	餅店	水原	富谷	軍浦場
一二.四一	一二.五五	一.二二	一.三六	一.四九
六.五四	七.四九	七.一〇	七.三〇	七.三九

近古史料

今昔の感（三）

（對馬島露艦暴狀事件）

大東彈吾氏談　社員筆記

明くれば三月一日は僅かに風靜かの朝であつた、尾崎村沖の二艦は黑烟を吐き初めた、船は芋崎方面に向けて動き出した、すると露船遂入との報は宗家の城下厳原に向つて櫛の齒をひくが如く飛び追ふた、淺岡間狀師は船中に走せて何れに赴くやを問ふた彼は傲然として露國の國法は三十日以上回答なき國に對しては自由行動を執るべき規定なり去來明示すべき必要を見ずとて無体にも益々進入するのである、間狀師は手を空うして歸つた自分は此時露艦の行手監視を命せられたれば端船に乗じて彼か附近に彷徨してあつた船は段々速力を早めてある之を見んとて三々五々磯船に乗りて集まれる人々數百千艘グルリと露艦を取捲た光景は一寸奇しき眺めであつた艦は仁位淺海に還入り暫時にして出で濃部村浦を經さて玉の浦に一泊した

自分は一々之を報告した此方は間狀師宅に於て一藩の諸士は評議を初めた怒る者も罵る者も要するに妙案がない對々として徹宵の議論は小田保評定に終つた兎も角も露艦の逆泊せる處に追付き飽まで退去を迫るに若ずとて藩老仁位孫一郎氏は自ら諸士頭召年寄以下を從ひ佐志賀と言ふ處まで出張した之を聞て壯士の面面はスワヤ事あれを起りたりと佐志賀に集まる者數十百人忽ち人の山を築いて佐志賀は時ならぬ大光景を描き篝火天を炎して淅瀝悲壯の感身は戰場に在る乎と思はれた此夜も徹宵議論を盡したのである

其翌二日船は玉の浦を出て、遂に芋崎に這入らんとした芋崎は彼が第三番に指定した地であつたが是れ即ち彼の奸計で其最も欲する處は第一に芋崎を矚望してあつたので、ある芋崎に入るには是非天狗崎を通らねばならぬ其近岸に鬱蒼たる檜杉天を摩してゐる何人か忘れたか、斯う發議した大木を切り取て大石を結び付之を天狗崎に投じたら狹隘の處故石は重くして沈み木は浮んで流れず恰も楼櫓のソレの如く露艦は通航は出來まいと自分は妙と叫んで賛成した壯士の面面は動搖めき叫で大悦し議決して早速拔錨し初めた處が落老を初め重なる人々は大議し百方慰撫して僅かに思ひ止まらしめてあつた露艦は滯りなく芋崎に這入つた彼等が第一の希望たる芋崎浦に這入つたのである一藩の大驚擾と大迷惑とを盡して而して壯士の悲歌慷慨と宿老の苦心慘憺とを盡して遂に一暼の價だも與へられぬのである

彼等は芋崎浦に碇泊して上陸し初めた木を切り石を集めて假屋を作り永く居住の準備を初めたのである芋崎より厳原に至るべき第一の要路1黑瀨村と言ふのがある万一の警戒を兼ねて仁位藩老は陣所を茲に移し燒んに篝火を燒て勢威を張り一面折衝の任に當り絶へず又汗馬を走らして藩主及藩府に急報した藩府より第一に乘込んだは長崎忠太夫とて同勢四五人であつた直ちに艦長に退去を迫つたけれども一蹴して拒絶された彼等は遠慮なく普請を急いである大砲も陸上げを初めた準備は着々として整ふてある而して幕吏の徒と我藩の士は手を拱して然り手を拱して彼が爲す儘に一任してゐるのであつた

朝鮮神史

林慶業の傳（二）

浪蝶生譯

かゝる程に光陰は流矢の如く戊午の年となり慶業此の時十八歲の春をむかへぬるに國家は太平よして別科ある事を聞き即時行裝を調へ京城に上り科擧の日を予待ちしに其比當日となりしかば兼て待ち構へし事とて聞きし所の科場に入り多幸にも天恩の厚き蒙り雅頭第一に登第し即日榜示して典獄主簿を除授し青紅蓋と御馬を下賜せられしに依り慶業は君恩の厚きに浴して科場を出て闕門前に到り見るに此はそも如何に左右は各色に飾れる風流の花童娼夫羅列して長安萬民の見物紛々たりし

三日の間暇を賜はりしを以て故郷に歸り祖先の墳墓を掃除し住みなれし自家の門に到りし時は慶業の母は我兒の出世限なきを悦ぶと同時に亡き夫の事をも思ひ出し喜び歎涙むせび出で一時は言ふ事も絶へたりしとは母子の情實にさもありぬべし

かくて慶業は直に京城に赴き典獄主簿の職にある事三年の後兵曹判書李時白の推擧に依り白馬江萬戶に除授せられぬ、慶業謝恩遣拜して道を急ぎ到任したるの後軍民をして役を除き慶業を勸め閑暇あれば射弓劍術と馳馬放砲の事を講ぜしむるに鎭中百姓咸謝措くなく益に孜々として軍務を勵みぬかへるが故に白馬江萬戶第一の治民と稱せられ軍政の如きも京師に於ははりしかば朝廷にも其の名籍々たるに至りぬ此の時に當り右議政元斗杓前に相議して曰く目聞くならく鎭馬山城は最も要害の場所にして寸時も防備を怠るべからず然るに近來は軍務解弛し城壁概ね頽落したりと此の如くんば如何で邊境の守備を完ふするを得ん迷に適當の武班中に智謀ある者を撰拔し城壁を修繕せしめ防禦を嚴にすることそ刻下甚急の事なりと上奏しけるに上聞に之を嘉みせられ備敎して曰く卿の奏する所は概切なり故に直に適當の武人を撰んで赴任せしめ時日を費さずして竣功すべしと命ぜられしかば右議政庇れを諾々として退き兼て其の名の聞へありし白馬江萬戶林慶業を拔擢して鎭馬山中軍に職を移されぬ

慶業王命を奉し本陣に歸り擧ゆる所の軍民を召集し王命の所以を敎諭しけるに一陣中の軍卒一同に集り將師の勤勞を慰迎するか爲めにと酒饌を設け大宴を張り上下の區別なく等差く皆な誠意を表す萬戶親自ら盞を掛けて曰く吾は未だ德を修めず故に汝等と共に苦を同ふし一同心協力して治民を企てんと欲したり而して寸毫も恩を施さたる事なきに嗚乎此れ如何なる儀哀ぞ吾は殘愧して言ふに言詞なし特に吾に對して表情する事勿れ冷酒も爲めに慰勞となる敢て眷々なる情曲を飾る勿れと劉離一番自己の赤心を表したるに群集の軍民一時に起立し叩頭再拜して謝して曰く小人等幸て此の如きの英明なる將師を戴き思離し故に今日離別に臨み小人等は凡て赤子の慈母に離るゝの感あり無禮の段は恕まる王へと異口同音に唱へ又た言ふ將師君は無恙に行次せられ而して多福と陞官の榮譽あらせらるべしと万戶の軍民上下共に離別を悲しみ哭涙せさるはなかりし、かくて慶業は京城に入り兵曹判書李時白を訪ひしに判書李時白共の無異にして入京せしを悅び且つ今回の延命を逃べ併て元相の内命をも傳へて曰く足下の才識略達なる聞あるを以て鎮馬山城の中軍に移職せらる謹で命を拜し行裝を調へ任地に赴き城隍を修築し軍政を善施せらるべしと慶業謝をなし且つ謝して言ふ生の如き小人庸才の者を以て黑衣此の如き鴻恩に浴するとは何の日か大恩に報ゆるの時かあらん殊に又兼說の下情は之を如何せん生の恬惧之れに過ぐる事なし李判書此を聞き奇特の言なりと賞し直に闕下に入り右議政元斗杓慶業の入京を述へ元右議政慶業を招き且つ告げ曰く足下の才操卓絶守るに武班中より撰出して險遠なる地の要害の城隍を修築するを命ず赴任の後倉庫城塞修築の大功を奏せらるへし遠路の勞亦た謝するに餘りあり、段勸此れを謝む慶業拜謝答て曰く小人にして庸劣の才を以て如何てか此の如きの大任に耐ゆへき然りと雖も盡心努力して閣下の命を奉すべし閣下幸に之を安んぜらるへき右議政大に其の言を賞し慶業に暫く休急然る後發程すべしと此に於て慶業直に行裝し途を急ぎ鎭馬山城に向ひ赴任しぬ時は此れ壬戌ふ三月なり慶業山城に到り修築すへき塲所を撿するに聞きしに勝る山城々壁は皆な頽敗して目も當てられざる有樣にて猝然之を修築するの難き其の難工事たる又名狀すへからず殊に小數の士民と軍卒を以て迷に改修すへからさるに依り其の意見を書して之を上奏す兵曹之を聞き直ちに若干の軍卒と工夫を鎭馬山城に旅す此にて林中軍其の兵卒と工夫とを合せ修築に着手し役夫の元氣と軍律の嚴を示すか爲めに豫め酒食を給し牛羊を屠り集まる所の役卒に與へ且つ令して曰く汝等國家の爲めに此の艱難なる處の城隍の修築工事を爲す實に其の勞察せさるに任ず然りと雖も國家の爲めには寸時も此の城隍の修築をなさゞるへからす宜しく万人同心協力して速かに竣功乃曉を見るへし賞罰ともに軍律あり汝等苟も怠慢の意を有する勿れ私情を以て公役を妨ぐる勿れ軍律は嚴正にして秋毫も假借する所なしと生鷄を捉へ刄を以て之を刺し淋漓と滴る生血を大盃に注ぎ右手に酒を注ぎ又た令して曰く斯せし軍律に一人たりとも不服なりと言ふ者あれば恰もまの雞を屠るか如くすへし令し終て滴る處の生血を啜り遂次之れを諸將に勸めたりしか軍中翕然として一ッも不得と云ふ者なしあたかも如くあるか故に軍律の嚴重なるを知らざる者なく役を始めし後三日の定役を一日に竣ゆるの如き好結果なるを以て中軍亦た謝して曰く汝等克く軍令を奉じ城役に努力しつゝありこの如きは國に忠に父母に孝なり速に竣成して自家に歸り且又た褒賞を與ふへしと或は戒め或は慰勞す斯くあるが故に軍民感激し各自中軍を稱誦し萬世不忘の仁君なりと謳讃しぬ林中軍稀世の才を揮ひ終始軍役を督勵去たりしか三ヶ年間有限の難工事も一ヶ年に去て竣役せしか故に其の理由軍卒の勉力をたる詳細記述し之を堂上に奏し役務に關して賞賜すへきを白し軍役夫を犒ひ歸郷せしむ

飜譯小說

佛蘭西騎兵の花（三）

英國　コーナンドイル作
日本　梅村隱士譯

幽鬱城の探險（つゞき）

世良田は今出合つた少年士官の龍野少尉の背白い顏を見て其態度と思ひ合はせると乾度其部下を指揮して居ても部下の者は只焉の上でずるける事計りを考へてゐるのであらうと思つた。

それから僅かの間其處に馬を休ませてゐる内に此少尉はまだ士官學校の生徒時代に老兵を指揮する稽古をしてゐた時のまゝである事を看破した、それは自分にも覺えのある事で其時代には自分の年の數より度數多き戰爭を經て來て居る老兵に向つて號令を懸けるのであるから自然に『どうぞ前に進んで下さいませんか』或は『ちつと驅けつて見てはどうでせうか』と云ふ樣な風に云はねばきまりが惡いのであつたのだ。

それで此龍野少尉の部下が隨分ずるけて居るのを見て氣の毒に思つて其奴等を一睨みしてやつたから部下の兵共は鞍の上で一度に身を固くして了つた。

それから世良田は龍野少尉に向つて、

『君は是から北の方の道を行くんですか』

と問ふた處が其答は望んだ通りであつて、

『私はアレンスドルフ村附近の偵察を命ぜられてゐます』

世良田『それぢや、僕も御同道しやう、少し道は遠くなるけれども近い道の塞がつて居る處より早く驅れるからね』

今龍野少尉の語る處に由ると此方面は佛兵の陣營から次第に遠ざかつてコサック兵や强盜などが出沒してゐる危險な處であつて後の方が我兵で道の塞がつてゐると反比例に非常に寂しい人の氣の少ない地方であるのだ、最も其處を廻つて行くと又我邦の兵が先には澤山廻つてゐるけれども。

斯くて世良田は龍野と二人で此斥候隊の先頭に馬を進め後から六名の騎兵が蹄の音高く跟て來るのであつた。

此龍野少尉と云ふ少年士官は世良田と次第に懇意になつて種々話をして馬を駛らせてゐる内に其性質は極めて順良な罪の無い者であるが分つた、世良田の眼から見ると丸で學校に居た時の樣にアレキサンドルやポンペイの事蹟に計り精しくつて馬術を識ふる事も知らず蹄鐵の世話をするとも出來ないと云ふ事まで。

而し兎に角龍野少尉は順良な罪のない少年で野戰の經驗で以てすれからしてゐないのである、龍野は頻りに妹の丸子の事を綱江にゐる母親の事を物語つて世良田を喜ばせた、その內に一行はハエンナウ村に着いたから龍野は直に郵便局に乘り付けて局長に會つて斯う尋ねた。

『此近邊に外部男爵と云ふ者が住んでゐるかどうか知つてゐるですか』

郵便局長は頭を振つたから一行は直ぐ亦馬を驅けさせたが、此時まで世良田は何にも氣に留めずに居たけれども又次の村に來ても龍野が同じ問を發して又失望した樣子であつたからその外部男爵なる者は何者であるかと尋ねるのを禁じ得なかつた。

此質問に對し龍野少尉の小供らしき顏は俄かに一種の說き光りが冴へた、

『そりや私が極々大事の用向を持つてゐる者です』

と答へたけれども世良田に採つては不得要領であつた而しながら其擧動から見るとどうしても夫よりふかく尋ねらるゝのを好まない風が見ゆるのであつたから世良田も强ては之を追窮しなかつた、からしてそれから後龍野が農夫にでも何でも出會頭に外部男爵と云ふ者に就て全じ尋ね事を繰返してゐたけれども最早何にも其事には嘴を挾まなかつた。

斯うして行く內にも世良田は騎兵士官の本分として地方の略圖を取る事から河の水の流るゝ方向と渉る可き淺瀨の所在などを書き留めてゐたが一行は次第〳〵我兵の本陣から遠くなりゆくので遙かに南の方で霹靂の空に微かの烟の揚るのが我兵の前哨線であると云ふとが知られるのみで北の方一帶は總て露軍の冬營であるから益々進む程愈々危險を感ずるのである。

二度程遙向ふの地平線に劍の光りが輝いたのが世良田の銳い眼に映つたから之を龍野に敎へてやつた、而し餘程距離が遠かつたので何處からとは確かに分らぬけれども其コサック兵の槍の先であるのは疑ひもなかつた。

一行は或る小山の上に登つたが此時日は最早暮れさうになつてゐる、此處から眺むると右の方には一の小村が見え左には松の林から高く聳えてゐる異黑の塊がある、折りしも羊の皮にくるまつた農夫が俯きがちにとぼ〳〵と此方にやつてくるから龍野は

『彼處は何村だ』と尋ねた。

農夫『彼處はアレンスドルフ村であります』

とぶんさいな調子の獨逸語で答へた。

龍野は、それでは今晩彼處に舍營するのだなど獨り驕の樣に言つて、それから最後の質問を其農夫に向けた。

『お前は外部男爵と云ふ者の居所は知らないか』

農夫『そりやあの幽鬱城の主人です』

と答へて松林の中から突き出て居る高い塔を指した。

龍野は此を聞いて獵師の獲物を見附け出して喜ぶ時の樣な叫び聲を出したが、此少年はその爲に氣でも狂ひはしないかと怪しまれる樣子を現はして眼は喜に輝き、顏は血の氣を失ひ齒ぎしりをしてゐるから農夫は忙てゝ二三步後へ退いた。

龍野は傍に人あるを忘れたる如く馬の首よりも先に自分の頭を差出して彼の幽鬱城と呼ばるゝ大きな眞黑な建物を睨んでゐるのであつた。

明治卅八年一月十四日 第三種郵便物認可

朝鮮日報

時間表		
富谷	九。三一	四。一六
水原	九。四九	四。三四
餅店	一〇。〇二	四。四七
天安	[illegible]	[illegible]
小井里	[illegible]	[illegible]
馬毛浦	[illegible]	[illegible]
新灘津	[illegible]	[illegible]
坪村	[illegible]	[illegible]
永同	四。五一	一〇。二〇
黄澗	五。〇一	一〇。三二
秋風嶺	五。一九	一〇。四五
新洞	[illegible]	[illegible]
大邱	[illegible]	[illegible]
院洞	[illegible]	[illegible]
勿禁	[illegible]	[illegible]

社告

弊社今般本紙發行致候に就ては大方諸君の御賛助を辱ふし難有奉謝候然るに本社創立早々活字器械等未だ充分に整理不致從つて豫定の附録頁數を減少するの已むなきに至り且つ紙面の體裁未だ完備不致記事材料の蒐集亦意の如くならず之に加ふるに各地の通信尚ほ到着せざりしは頗る遺憾に之有候次に本社支局の儀は左記の箇所に設置すると共に準備罷在候

●京城、●大邱、●下關、●馬山浦、●

寶捌所の儀ハ朝鮮各要地に設置致す筈に候へ共目下の處大邱西門内朝日商會に於て取扱ハせ申す事に致し候

明治三十八年一月十五日

朝鮮日報社

小說 戰勝 (四)

黑潮作

夜の明けるを俟ちて富子は臥床を出て何を感じたるか今迄床の間に飾りたりし夫の位牌を取り除けて只寫眞計りとなしつ、假かに下女を呼び起して彼此の用を命じたる末町の方に買物に出しやりたる其品の内には今年は元日より式を爲さゝりし爲め用意の無かりし搗餅さへもありし。

幼いけなき鐵男は程なく眼を覺して朝より元氣よく軍歌を謡ひ廻るので、母は時子を起して髪を結ひやりつ。

富子『今日はね、お父樣の蔭膳を据ゆるからお雑煮を做らへて上げますよ』

時子『妾は昨夜ねお父さまのお歸りになつた夢を見てよ、うれしくてお母樣は看護になつて何處にか行つて了つておらつしやらないんですつて。内には鐵と妾と二人しか居なかつたわ、するとねお父樣はお屠蘇を飲んでおらつしやるから、妾はね今年はお正月をしてなかつたからお雑煮はないんですと云ひましたらはお父樣は笑ひなすつて、お父さんが歸つたから餅でもなんでも澤山搗いてやるつてさう仰しやつたらお母さんが起しなすつたのよ』

富子『まあ、時さんもそんな夢を見たんですか、私もねお父樣がお歸りになる處の夢を見たんだから、きつとどうかして歸つておらつしやるよ、私は今朝と云ふ今朝はさう計りしか思はれないから、今朝はお雑煮をしていつかしたかげ膳をするんですよ』

時枝家にては始めて正月らしき朝となりて主人の寫眞の前には蔭膳さへ備へられつ、鐵男は例の洋鐵のサーベルを手にしてペチを追ひ廻し、時子は羽子板を手にして近邊の學校朋友と面白く歌ひつゝ遊ぶ。

午前十時、昨夜の嵐は天の一方に收りて駒込の邊千駄木林町なる時枝家の住居には旭日の光り寂しげながらも心地よく輝き渡つた、折りから玄關に電報と一聲勇ましく叫んで投げ込み行きたるは待ち設けたる電報……手に取れば二通ある。其一通は京橋なる義兄の出したので、

リヨジユンノワガホウヨノウチニダイキカンシ一ニンアリタミオナルベシ

他の一通は無論海軍省より發せるものにて

トキヱダシセイソンスケフタヽコツパツカヘル

是より先は最早筆にする必要がない、戰には勝ち、亡き人と思ひしは歸り來るべしと云ふ、時枝家の今年の新年の目出度いおさ

小說豫告

露探狩り

黑潮

恐ましきかな露探の名、惡む可きかな其舉動、之を探偵して之を狩り盡さんとする一個の志士あり變幻出沒の奇智を用ゐて千變萬化の快舉を演ず、猪犬号よりどんなものが出るか待つて居玉へと申す。

所謂閉口事件

◎電氣樓の休業 昨紙所報の如く當港佐須十原電氣樓の藝妓四名が同地驅梅院醫員某の失態より肝心の場處を負傷し今猶入院中なると同樓他一名の藝妓は之れ又疾病あるとにより同樓にては昨日より一週間休業する事となれり

◎いろは休業せず 別項同樣不慮の災難に遭ひしいろは樓の藝妓六名も今猶は入院治療中なれど同樓にては殘部の戰闘員にて一時間に合はせ休業せざる由

◎樓主藝妓連の憤慨 罹災樓主等は勿論各樓主を初め藝妓連何れも醫士の失態を憤怒せざるはなく是れと共に早くも排斥熱起り居るなど問題漸く大ならんとする模樣なり

寫眞界の昨今 (當地に於ける)

▲ピーオーピ プロマイド、プラチナなどの寫眞は四五年前頗る喝采されてあつたが昨今はピーオーピといふ光澤のある寫眞が頗る流行して居るかの傾向は昨年の春頃からであるかの點に於ても當地人一般の美術に對する觀念も一歩を進めたものである

▲現來外國人と寫眞 韓國内地の觀察としてやつて來る外國人は當港に於て寫眞を撮る傾きがあつて寫眞屋の見本帳の中には赤髯碧眼の先生が頗る多いのである

▲韓人と寫眞 韓人の撮影者が頗る増加したのは聊か嬉しい殊に昨年頃より甚しく増へて一昨年の今頃に比へると三倍して居る相である

▲内地の風景と寫眞 韓國内地の風景を撮影したもの、需用が一番多いといふのは本邦の新聞雜誌が滿韓に注目して居るから當港の寫眞師も大邱邊迄には入りて居るが更に深く邊土に進んで風景其他の風物を紹介せねばならんといふて居る

▲撮影者の比較 當港には寫眞屋が三軒あるが如何なる方面から見ても多いのであるが而かし其の撮影者は非常なもので内地に比較すると確かに三倍して居る相である

●無職業者と上陸 昨今無職業者の上陸する者頗る多き爲めに上陸するも雇主なきに窮し結局慈善協社の救助等を仰ぐ由なるが其の多きは店員上り乃至書生等にて職人としては石工等頗る多しといふ

●下婢と仲居 當港に於ける藝妓は最早充滿の状態にて供給の必要なきも商店、官衙員等の下婢及び仲居等に不足を告げつゝありて當港のみにて双方に於て猶は百餘の需要あるべき由なり又昨今當港寄留の藝妓にして大邱京城を始め内地に赴くもの頗る多しと云ふ

◉金棒改良の斡旋 當夜警組巡還員の使用する金棒は愈々改良を加へ今明日中に實施の筈なりと云ふ

魚市場 (廿一日)

一金壹千〇二十圓八十九錢 水揚高

相場		
たい	十貫目	十八圓
あわび	同	十五圓
ひらめ	同	八圓
さわら	同	十六圓
ばら	同	八圓
ぶり	同	十八圓

下關の米界

▲目先尚ほ小相場 折角の立直り相場も又た挫かれて十二圓臺よりあるが強氣の眼より見れば正米の強て安からぬには再び引戻しあるべく想はれ弱氣の眼より察せば理想と背馳したるとて更に一段の安直あるべく期し居れるが強氣の材料たる戰時諸般の材料は既に要め盡せる、又た弱氣の者となしたる東京及大坂の事情も最早實盡したる曉なれば到底今後有力なる新規材料の現はるゝまでは目先に大相場は望み得られまじきかと云へるもあり果して加何にや

▲相場は持合ふ乎 期米は一高一低定かならぬかの觀あるも本場の如きは復た弱氣時代を謳はんかにも想はれしが大体の場面は湖商内にもあり其實買の少なくとも一方に多からむには高低何れにを自由するが如くあれば随つて鼓處多少の高下はあるべきも大体に於ては亦持合ならざるか

▲强氣筋の相場觀 正米の形勢は強て氣直るとは見へず各地農家は國債拂込みと舊節季とに要する資金に迫りて持米を賣出すなるべく集散地の在米は更に減退を告ぐとも想はれざれば戰時經濟の事情よりして大勢騰貴すべかりし相場なりとするも其は前途尚は遼遠にして今日の事情より推究するも目先き一段の低落は到底免かれ難きか如しとは弱氣の米觀なり

▲押目は買もの乎 本場の引け味より考ふれは再び低下の途にあるべく思はるれど之れ畢竟賣方の味噌買に過ぎざるかの感あれば若し機の熟せざるには或は引戻し處ならざるか鼓處場面の人氣に反對即ち押目に買ふの期にあらざるなきか如何

餘興欄 新案考へ物

◎こんな眞黒な高帽子見た樣なものは何でせうか、世界中の或る大都府の市街圖をひろげてその面積を眞黒にして見たものですと言へば學校生徒なぞには直に解る考へ物です。其解答者には懸賞の印として本紙を一ケ月間無代進呈します但し先着解答者三名に限る

廣告

釜山天氣豫報

北又ハ東ノ風 雨后晴レ

瀛船釜山出帆廣告
日本郵船會社 長崎門司神戶行
●日東丸 陽一月二十七日 陰十二月廿二日
門司神戶行
●チハヨー號 陽一月二十四日 陰十二月十九日
荷客取扱所 **大池回漕店**
同 **〇十回漕店**

汽船釜山出帆廣告
大阪商船會社 木浦仁川行
●義州丸 陽一月廿四日 陰十二月十九日
●安東丸 仝一月二十六日 仝十二月廿一日
●交通丸 仝一月二十三日 仝十二月十八日
仁川行
●アミゴー 仝一月二十九日 仝十二月廿四日
木浦群山行
●肱川丸 仝一月廿八日 仝十二月廿三日
●漢城丸 仝一月二十二日 仝十二月拾七日
●アモイ号 仝一月廿三日 仝十二月拾八日
●群山丸 仝一月廿三日 仝十二月拾八日
●琴平丸 仝一月二十五日 仝十二月二拾日
●本浦丸 仝一月廿七日 仝十二月廿二日
●交通丸 仝一月廿八日 仝十二月廿三日
●義州丸 仝一月二十二日 仝十二月十七日
釜原長崎博多下關神戶大阪行
●手取川丸 仝一月廿八日 仝十二月二拾三日 午前六時出帆

瀛船釜山出帆廣告
大阪尼崎 下關神戶大阪行
●漢城丸 元山行 仝一月廿八日 仝十二月廿三日
●神代丸 下關神戶大阪行 陽一月廿六日 陰十二月廿一日
●崇敬丸 第二 仝一月廿七日 仝十二月二拾二日
●大有丸 仁川行 仝一月廿八日 仝十二月二拾三日
●長久丸 仝一月 仝 元山行
大阪尼崎瀛船 元扱所 **新辰舍** 釜山港琴平町 電話貳拾九番

瀛船釜山出帆廣告
元山行
●永田丸 陽一月二十六日 陰十二月廿一日
第八 世昌丸 行門司神戶行
●ダグマル號 陽一月二十三日 陰十二月十八日
●全勝丸 仝一月十四日 仝十二月九日
●蒼龍號 仝一月十九日 仝十二月十四日
●平安丸 第二 仝一月拾九日 仝十二月拾四日
●防長丸 仝一月二十一日 仝十二月十六日
仁川膠州洲行上海行ハ仁川ニテメダン號ニ接續ス
冲永回漕店 （電話貳百貳拾七番）

元山行
瀛船釜山川帆廣告

浦門丸 第二 陽一月廿三日 陰十二月十八日
●大有丸 仝一月二十一日 仝十二月十六日
下關神戶大阪行
●福生丸 仝一月二十三日 仝十二月拾八日
●神代丸 仝一月二十四日 仝十二月十九日
●天照丸 仝一月二十五日 仝十二月二拾日
●敬丸 第二宗 仝一月十一日 仝十二月十六日
東洋貿易合資會社汽船、城野洋行汽船、尼崎汽船、三輪商會汽船
荷客取扱店 同海岸出張所 **三木回漕店** 電話一七二番

瀛船釜山出帆廣告
堀商會 下關大阪行
●京畿丸 陽一月廿三日 陰十二月十八日
元山行
●慶尚丸 仝一月二十三日 仝十二月十八日
●泰盛号 仝一月二十五日 仝十二月二十日
荷客取扱所 堀汽船代理店 **山川回漕店**

釜山出帆廣告
大川運輸株式會社深川瀛船
●若津丸 定期連絡瀛船 唐津行（九州鐵道ニ連絡ス） 一月二十四日 午後六時
殿原 中上回漕店方
荷客取扱店 **國中商店**

官烟輸入元
大日本專賣局指定韓國

釜山幸町一丁目
●文明 ●朝日 ●大和 ●きざみ 印刻煙草
齋藤支店

きりん印刻煙草
韓國一手販賣店

至急廣告
弊店儀從來買物帳を使用し來たりし處月末に至り仕拂の際買物帳へ記入以外の書き出しある事屢々發見致し候條附來弊店の買物帳を持參し居らざる者には勿論假令店員たりとも掛賣無用に付き弊店に於ては一切其の責に任せざる事に致候間此段廣告候也
釜山港幸町一丁目
園田時計店 電話二百十番

●**新座敷披露**
開業以來四方の御愛顧を被むり日に評判もみよしの〻三笠〻〻引手數多の御贔負に顏に立田の紅葉して御禮の言葉も後や先き御倚に此に幾久しく末の松やまかわらせなふ御引立を願ひまつるになん。
此度建築せし數奇に構へし新座敷は渺瀰に面じ山水の景を一眸に收め新遊の御客をして四時の眺めに飽かしめざるは受合なりおまけ客樣を鄭重に待遇し料理の鹽梅よく價低廉に且つ御注文の肴は一品たりとも差出さすに之れ三笠の特色專賣なり
會席仕出し、宴會等總て內外に於ける料理の御注文お應じ捨々勉強仕候間倍舊御來遊の御用命被仰付度御願申上候敬白
うづら御飯
けいと肉飯
あいめし飯
おつまむし
茶碗むし
其外
かき御飯
あなご飯
かやく飯
あさまし飯
むしかけ
會席御料理
三笠

委託賃搗營業科目廣告
蒸瀛磨擦機械ニ依リテ晝夜二百石以上二百五十石以下ヲ製出シ石拔米並ニ上中下精白米ノ如キモ精々迅速ニ丁寧ニ取扱ヒ何時ニテモ御委托ニ應ズベク候
右ノ通リ當所ハ非常ノ迅速ト非常ノ勉強トニ依リ況ク顧客諸彦ノ御愛顧ヲ蒙リツヽ有之候ニ付テハ尙ホ一層ノ勉勵ヲ以テ營業仕リ候條多少ニ係ラズ何分ニモ御用向願上候也
釜山港 **日朝精米所**

磨擦米小賣販賣廣告
石拔。精白米。並白米。
其他一式
右ハ多少ニ依ラス御注文被成下候ヘハ速ニ御屆ケ可申ト共ニ極々薄利ヲ以テ販賣仕候
富平町 **岡本米穀店**

弊店販賣ノ「ラバロイドルーヒング」ハ米國テロンテ會社ノ特許品ニシテ通稱亞米利加瓦ト稱ヘ酷寒酷暑ニ堪ヘ酸類ニ侵サルヽコトナシ、巴里、オマハ、哥倫比亞、チェリン（以太利）ブラッセル（白耳義）ステッチン（普魯西亞）クールガーデー（オーストラリア）其他ノ世界大博覽會ニテ金牌ヲ得タリ今回大坂天下茶屋ニ築造セル停廢收容所六十棟ハ悉ク此屋根板ヲ以テ葺カレタリ
此屋根板ハ獸毛ヨリ製造シタルモノナル故萬代朽ナルコトナク、並木ノ腐敗スルトモ此屋根板ハ腐敗スルコトナシ
當地小學校假教場屋根ハ此ラバロイドヲ以テ葺カレタレバ御一覽ノ上御注文被下度候
南濱町四十三番地
韓國一手販賣直輸入者 **北海屋商店** 電話三三八番

屛風、フスマ、表具類一切
調進所 西町三丁目三番地 **岡田松月堂**

本舖大阪喜香堂
●快通丸 のぼせひきさげひけつしよ
●忽治丸 はらいたみかくらんせきり おれらびよう
日本一藥舖（ヲチニ） 富平町支局

醫料器械類廣告
●醫料器械類
●藥品類
●賣藥類
●洋酒ミルク
釜山本町 藥劑師 **弓削靈藥舘**

●滋養スープ
●洋食
●會席
●このわた
●御飯むし
●花むし
●茶碗むし
其他 御好ニ應ず
幸町 **養鷄舍**

純良
●乳牛健康無比
●牛乳配達迅速便利
富平町廿四番地 **稻尾牛乳店**

陶器御商
美濃陶器同業組合の韓國の一手販賣なるゆゑより品質の堅牢にして安價なること他店に比類なし
㊂陶磁器の會商㊂商會の品は五日以內に持參あれば他品と引換えします又た手紙の御注文は特に親切に取扱ひ精々薄利に致します㊂
㊂ 各種陶器商名產地 其他美濃物產各種
本店 美濃土岐郡泉村
美濃物產合名商會
支店 韓國釜山大廳町 主任 山口精

大勉強廣告
英字正宗印
大奮發印
其他各酒類
右酒類大々的勉強ヲ以テ販賣仕候間遠近多少ニ不拘御引立御用ニ預リ度奉願候
富平町 **山內支店酒造場**

齒科診察治療時間
自午前八時至午後五時
但齒痛患者此限リニ非ラズ
西町三丁目卅八番地 **深江齒科醫院** （電話二百五十二番）

京都產
クワ井。葱。水菜。荷着
吳服反物類新荷着
右今日荷着仕候に付ては精々御勉强御用達可仕候に付多少に拘らず御用向御引立の程伏て願上候
釜山幸町三丁目郵便局前通角 **松崎吳服店**

東京御料理
麥とろ
あそび
南濱海岸通り （電話二四四）

製品廣告
●リベット
●スパイキ
●ナット
●ボールトナット
●アイシユボールト
●アイシユプレート
●リンプワシャ
●コウチスクリュー
●コーベル鋲船應用
●デツキボールト
其他鋲類一式製造
神戶市兵庫小川町通五丁目
兵庫製鋲合資會社

活版印刷
釜山南濱 **日本堂**

會席御料理仕出し
西町三丁目（電話一二三）**春日**

輸入貿易商 輸入品委托販賣
松前商店 電話二二三番

商船會社仲次
同回漕部 電話一六七番

精牛肉小賣 其他雜貨種々
辨天町二丁目 **山內商店**

血を増し肉を肥やし胃の消化を助くる强壯的飮料は本品に如くもれなし
蜂印香竄葡萄酒
韓國一手輸入元 釜山港幸町一丁目
齋藤支店 電話番號一四四

東京直仕入
嶄新にして大流行品
はきもの たび類
特別廉價を以て販賣します
內山商店 電話二五六番